

ブック・レポート

富山ユネスコ協会青年部
2020年11月20日 (No.1)

1. 富山短期大学との協力

富山短期大学経営情報学科の東野善男先生と協力して、射水市の小杉まちづくり協議会が主催する「旧北陸道アート in 小杉」で古本市を開いた。

富山短期大学の東野ゼミの生徒さんがユネスコの本の倉庫から、本を選んで学外教授の一環として古本市を開きます。当日(2020年9月26日(土)・27日(日))は設営からレジ管理後始末まで学生が行い、成功裏に終わった。3年連続参加。

☆参加した生徒さんの感想☆

☆初めて選書してみて、数多くある文庫本、新書、絵本、雑誌などから30冊選ぶことの難しさを感じました。どれが良いのかを悩んだり、迷ったりしたため、興味を持ったタイトルで選んでみることにしたところ、自分がどのようなことに興味を持っているかを発見することができました。

☆古本市会場の準備をして本を並べた直後に、お年寄りから子どもまで多くの方々を訪れてくれました。気になった本を手にとったりしながら見て回り、買っていただいたときはとてもうれしかったです。古本をとおして、様々な人と関わることができたと思います。

☆古本市が始まってから、誰がこの古本市に立ち寄ってくれるか?どんな本を買っていくのか?本以外にも何か買っていくのか?などが気になって、お客さんを観察していました。親御さんと古本市に来場された小さな子どもたちには、店の前にあるマスクが目にも留まるようで、マスクは1日目の午前中に5枚以上は売れていたようでした。マスクが集客効果を高め、古本市の中まで入ってくれた子どもたちが、本を見てくれて、購入までつながることも結構あったため、良い試みだったのではないかと思います。

☆古本市では、単に古本を売るだけだと思っていましたが、実際にはそれ以上の意味があるように感じました。「こうした方が分かりやすい」、「こっちの方が見栄えが良い」といった発想や工夫は、実際に体験しなければ身につかないと感じました。この古本市は、とても大切な経験となりました。

☆お客さんが入ってこられたときは、子供からお年寄りの方まで、並んでいる本を真剣に見ている様子を近くで見ることができました。数多くある本の中から自分に合うもの、興味があるものなどを、ぜひ見つけてほしいと思いました。

☆売り上げ記録を見ると、今年は買ってくださった人数も冊数も最も多く、とてもうれしかったです。また、CDやポーチなど、古本以外の商品を複数販売しましたが、買ってくださった方がおら

れたので、来年も置いてみたらいいのではないかと思います。初めてのレジ体験はとても良い経験になりました。来年も楽しみです。

2. 第88回青空古本市 (2020年10月)

2020年5月の第87回青空古本市は新型コロナウイルス影響で中止した。

ちょっとおっかなビックリだが、88回の古本市を10月に開いた。初日の10月4日(日)は、朝方、雨がぱらついていたが開催できた。北日本新聞の取材(松岡仁志記者)を受ける。26人113冊売れる。10月11日(日)、ボランティアとして一般人2人、中学生2人にお手伝いして頂く。77人288冊売れる。10月18日(日)、ボランティアとして一般人2人、中学生2人にお手伝いして頂く。今日は本の提供が多く、その本を運ぶために夜8時頃まで本の片付けや整理を布瀬南公園でしていたら、女性の方が公園の散歩の途中だと思いが、本を車に入れるのを手伝ってもらった。NHKのラジオ取材や告知が効いたのではないかと思います。多くの人が訪れ135人426冊売れた。最終の10月25日(日)は中学生の方2人、高校生4人、富山短期大学の学生さんが2人、一般の方1人と多くの方のお手伝いをして頂いた。65人189冊、今回第88回の合計で302人916冊、1977年からの累計は15万9302冊になった。

今回の青空古本市は午前9時に本の保管場所に集まり、布瀬南公園へ本を運び、午前11時から午後4時まで青空古本市を開催、4時から本の保管場所へ本を運ぶということを繰り返していた。本の移動のスタッフが足りないのちょっと時間が掛かりすぎる問題があるが、もっていく本の数を抑えて何とかなっている。

3. 問題点

青空古本市の一番の問題は、本の保管場所の確保。全部で6箇所の倉庫があるが、ほとんど満杯で整理が出来ない状態になっている。整理をすればスペースが確保できると思うが、定期的に整理を行い(例えば日曜の午後1時から3時まで)少しずつスペースを作り、次回の青空古本市(2021年5月)に繋げたいと思う。少し夢のような事を言うが、期間限定でスペースを提供して頂き、そこへ本を運び、整理した状態で本を戻してスペースを作る方法があるが、提供してもらえる人を探す必要がある。(池上 勁)